



# Element Manager について

---

この章では、ご使用のサーバスイッチで稼働する Element Manager の Java ベースのユーザインターフェイス (GUI) について説明します。内容は次のとおりです。

- [概要 \(p.1-2\)](#)
- [Element Manager のインストール \(p.1-6\)](#)
- [Element Manager の開始 \(p.1-8\)](#)

## 概要

Element Manager を使用すると、使いやすい GUI から個々のサーバスイッチを管理できます。Element Manager を稼働するためには、次の作業を完了する必要があります。

- ホストまたはワークステーションに Element Manager ソフトウェアをインストールする
- Element Manager をサポートするように、サーバスイッチを設定する
- ホストまたはワークステーションで Element Manager を開始する

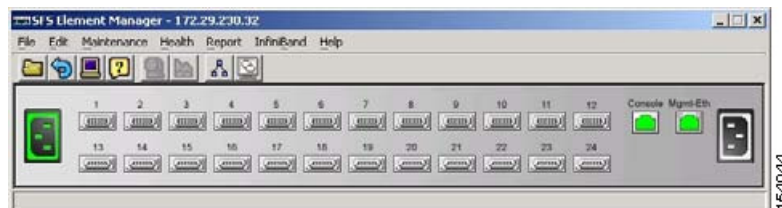
Element Manager ユーザ インターフェイスの基本機能は次のとおりです。

- [Element Manager の主画面](#) (p.1-2)
- [Element Manager のメニュー](#) (p.1-3)
- [Element Manager のアイコン](#) (p.1-4)
- [共通の GUI ボタン](#) (p.1-4)
- [情報インジケータ](#) (p.1-5)

## Element Manager の主画面

Element Manager の主画面には、ドロップダウン メニュー、機能ボタン、クリックできるさまざまな画面要素があります。図 1-1 に Element Manager の画面を示します。

図 1-1 Element Manager の主画面



メニュー、アイコン、画面要素の数は、サーバスイッチプラットフォームによって異なります。表 1-1 および表 1-2 に、画面に表示される可能性のあるメニューおよびボタンすべてについて示します。クリックできる画面要素は、ハードウェア プラットフォームによって異なります。

画面要素（サーバスイッチ ポートなど）をクリックすると、その要素の周囲に黄色の枠が表示されます。クリック可能な要素をダブルクリックすると、関連する設定ウィンドウを開くことができます。これらの要素を右クリックすると、その要素固有のメニューが表示されます。これらのメニューやウィンドウを使用して、要素の詳細を表示したり、設定を変更したりすることができます。

**Ctrl** キーを押しながら同じタイプの複数の要素（複数の InfiniBand ポートなど）をクリックすると、それらをグループとして一度に選択できます。複数の要素を選択してから、要素の 1 つを右クリックすると、利用できるオプションの右クリック メニューが表示されます。

## Element Manager のメニュー

表 1-1 に Element Manager 画面のドロップダウンメニューを示します。

表 1-1 Element Manager のドロップダウンメニュー

メニュー	説明
File	File メニューのメニュー項目では、次のことができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Element Manager 画面にサーバスイッチをロードする</li> <li>さまざまな機能の間隔およびしきい値などのパフォーマンス オプションを設定する</li> <li>画面をリフレッシュする</li> <li>稼働中のサーバスイッチへの Telnet を通じて CLI (コマンドラインインターフェイス) を使用し、スイッチを設定する (CLI の詳細については、『Cisco SFS Product Family Command Reference』を参照)</li> </ul>
Edit	Edit メニューでは、ポートまたはカードのプロパティを表示できます。
Maintenance	Maintenance メニューのメニュー項目では、次のことができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>サーバスイッチの詳細情報の表示</li> <li>基本的なサービスの表示と設定</li> <li>ブート コンフィギュレーションの表示と設定</li> <li>実行コンフィギュレーションのバックアップ</li> <li>ファイルのインポートとエクスポート</li> <li>サーバスイッチのリブート</li> <li>診断テストの追跡</li> </ul>
Health	Health メニューのメニュー項目では、サーバスイッチの状態およびイベントを監視します。
Report	Report メニューのメニュー項目では、サーバスイッチの統計情報をグラフ表示します。
InfiniBand	InfiniBand メニューのメニュー項目では、Device Manager や Subnet Manager など、InfiniBand 固有のサーバスイッチ機能を設定します。
Ethernet	Ethernet メニューのメニュー項目では、イーサネット固有のサーバスイッチ機能を設定します。
Fibre Channel	Fibre Channel メニューのメニュー項目では、ファイバチャネル固有のサーバスイッチ機能を設定します。
Help	Help メニューのメニュー項目では、オンラインヘルプの開始とその他のヘルプリソースの検索を行います。

## Element Manager のアイコン

表 1-2 に Element Manager 画面の機能アイコンとその説明を示します。

表 1-2 Element Manager の機能アイコン

アイコン	説明
	<b>Open</b> をクリックすると、画面に異なるサーバ スイッチがロードされます。
	<b>Refresh</b> をクリックすると、サーバ スイッチへのポーリングと画面のアップデートが実行されます。
	<b>Telnet</b> をクリックすると、そのサーバ スイッチへの Telnet セッションが開始されます。
	<b>Help</b> をクリックすると、オンライン ヘルプが開始されます。
	要素（または同じタイプの複数の要素）をクリックしてから、 <b>Properties</b> をクリックすると、その要素のプロパティが表示されます。
	要素（または同じタイプの複数の要素）をクリックしてから、 <b>Graph</b> をクリックすると、要素の統計情報を選択しグラフで表示できます。
	<b>Topology</b> をクリックすると、サーバ スイッチと隣接デバイスを表示できます。
	<b>Subnet Management</b> をクリックすると、Subnet Management ウィンドウが開き、パーティション、マルチキャストグループ、その他の Subnet Manager 関連機能を設定できます。
	<b>Storage Manager</b> をクリックすると、Storage Manager ウィンドウが開き、発信側、ターゲット、LUN を設定できます。

## 共通の GUI ボタン

Element Manager で開くことのできるウィンドウの多くには、よく表示されるボタンが組み合わされています。これらの共通ボタンを表 1-3 に示します。

表 1-3 共通ボタン

ボタン	説明
Apply	ウィンドウで行った変更をサーバ スイッチに適用します。
Refresh	サーバ スイッチからの最新の情報でウィンドウをアップデートします。
Close	ウィンドウを閉じます。
Help	オンライン ヘルプを開始します。

## 情報インジケータ

Element Manager 画面は、特定の色を使用して、サーバスイッチの要素の状態を伝えます。表 1-4 に、状態インジケータの色とその意味を示します。

表 1-4 状態インジケータの色

色	インジケータ
グレー	要素はアクティブな状態ではありません（ケーブルに未接続の InfiniBand ポートなど）。
赤	管理者がその要素をオフラインにしたか、その要素にエラーが発生しています。
緑	要素は正常に機能しています。
透明	要素は管理対象になっていません。

主画面では、図 1-2 のように、色によってポートのアップ/ダウンだけでなく、InfiniBand の設定済みレーン幅も示されます。

図 1-2 主画面のポートの状態



ポート 1～24 は InfiniBand ポートです。

- 稼働状態のポートはピンが緑色に表示されます。
- DDR（ダブルデータレート）の動作速度に設定されている InfiniBand ポートには、緑色のピンとオレンジ色の枠が表示されます。
- SDR（シングルデータレート）の動作速度に設定されている InfiniBand ポートには、緑色のピンとグレーの枠が表示されます。

## Element Manager のインストール

Element Manager は、Linux、Solaris、Windows のプラットフォームで稼働します。該当するプラットフォームの手順を参照してください。

- システム要件 (すべてのプラットフォーム) (p.1-6)
- Linux へのインストール (p.1-6)
- Solaris へのインストール (p.1-6)
- Windows へのインストール (p.1-7)

### システム要件 (すべてのプラットフォーム)

Element Manager をインストールするためには、システムが次の要件を満たしている必要があります。

- 使用可能な RAM : 64 MB
- 使用可能なハードディスク容量 : 75 MB (インストール時にはさらに 50 MB)
- 300 MHz プロセッサ
- 画面の解像度 : 800×600 (16 ビット カラー)

### Linux へのインストール

Linux に Element Manager をインストールするには、次の手順を行います。

- 
- ステップ 1** Linux ホストにログインします。
  - ステップ 2** Cisco Software Download Center から Element Manager ソフトウェアをダウンロードします。  
<http://www.cisco.com/public/sw-center/>
  - ステップ 3** ダウンロードしたソフトウェアの Linux ディレクトリに進みます。
  - ステップ 4** 該当するバイナリ ファイルを実行し、インストレーション ウィザードを実行します。
- 

### Solaris へのインストール

Solaris に Element Manager をインストールするには、次の手順を行います。

- 
- ステップ 1** Solaris ホストにログインします。
  - ステップ 2** Cisco Software Download Center から Element Manager ソフトウェアをダウンロードします。  
<http://www.cisco.com/public/sw-center/>
  - ステップ 3** ダウンロードしたソフトウェアの em/Solaris ディレクトリに進みます。
  - ステップ 4** `./install_yourOS.bin` ファイルを開始します。インストレーション ウィザードを実行します。
-

## Windows へのインストール

Windows に Element Manager をインストールするには、次の手順を行います。

- 
- ステップ 1** Windows ホストにログインします。
- ステップ 2** Cisco Software Download Center から Element Manager ソフトウェアをダウンロードします。
- <http://www.cisco.com/public/sw-center/>
- ステップ 3** ダウンロードしたソフトウェアの Windows ディレクトリに進みます。
- ステップ 4** 実行可能ファイル (em.exe) を開始すると、インストレーションプロセスが開始されます。
- Introduction 画面が表示されます。
- ステップ 5** **Next** をクリックします。
- License Agreement 画面が表示されます。
- ステップ 6** ライセンス同意書を読み、**I accept the terms of the license agreement** をクリックしてから、**Next** をクリックします。
- Choose Install Folder 画面が表示されます。
- ステップ 7** フォルダを選択して、**Next** をクリックします。
- Choose Shortcut Folder 画面が表示されます。
- ステップ 8** 必要に応じて選択し、**Next** をクリックします。
- Pre-Installation Summary 画面が表示されます。
- ステップ 9** Please Review the Following Before Continuing ウィンドウでインストールに関する情報を確認し、**Install** をクリックします。
- インストールが実行されます。
- ステップ 10** インストールが完了したら、**Done** をクリックします。
-

## Element Manager の開始

Element Manager を開始すると、管理対象とするサーバスイッチの IP アドレス (DNS 名) を求められます。管理対象のサーバスイッチに適切に接続するには、まず、Element Manager のアクセスを許可するように、サーバスイッチを設定する必要があります。Element Manager からサーバスイッチに接続できない場合は、サーバスイッチが Element Manager の要件を満たしているかどうか確認します。「[サーバスイッチの準備](#)」(p.1-8) を参照してください。

### サーバスイッチの準備

サーバスイッチは、出荷時のデフォルト設定では、Element Manager に接続できるようになっています。Element Manager を起動できるようにするには、サーバスイッチに次の設定を適用する必要があります。

- HTTP サーバをイネーブルにする
- Telnet サーバをイネーブルにする
- SNMP サーバを設定する

サーバスイッチの設定値を表示するには、次の手順を行います。

- 
- ステップ 1** サーバスイッチにログインします。
- ステップ 2** `enable` コマンドを入力して、特権 EXEC モードを開始します。
- ステップ 3** `configure terminal` コマンドを入力して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
- ステップ 4** `ip http server` コマンドを入力して、HTTP サーバをイネーブルにします。
- ステップ 5** `Telnet enable` コマンドを入力して、Telnet サービスをイネーブルにします。
- ステップ 6** SNMP サーバを設定するには、次を指定して `snmp-server` コマンドを入力します。
- 設定するサーバの IP アドレス
  - (任意) `recv-event-traps` キーワード

詳細については、『*Cisco SFS Product Family Command Reference*』を参照してください。

---